



午後のピラール聖母教会

水彩画

真喜志 卓



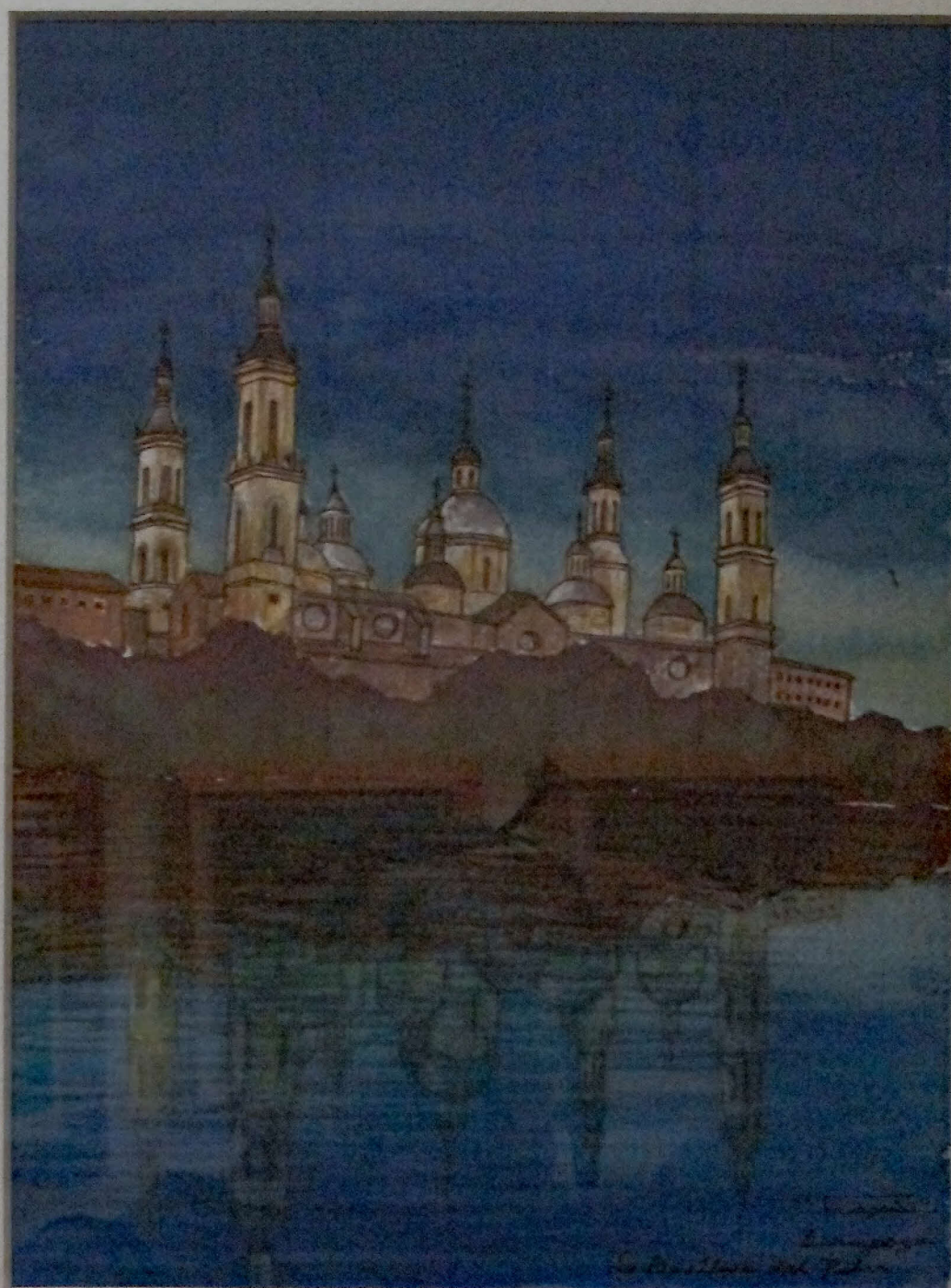


夕刻のピラール聖母教会

水彩画

真喜志 卓





夜のピラール聖母教会

水彩画

真喜志 卓





いつかある日  
(弘アルプス・エクラン山境)  
油彩画  
真野 史郎





サンチャゴ・デ・コンポステラ

油彩画

真野 史郎



夏の思い出

陶芸

矢口 代子



チャルちゃん

陶板

矢口 代子





〇先生へのオマージュ

陶芸

矢口 代子



みどり丸

陶芸

矢口 代子





夏雲

写真

渡辺 武経





夕焼けの海

写真

渡辺 武経





野生オウム  
(オーストラリア)

写真

渡辺 武経





水浴び

写真

渡辺 武経



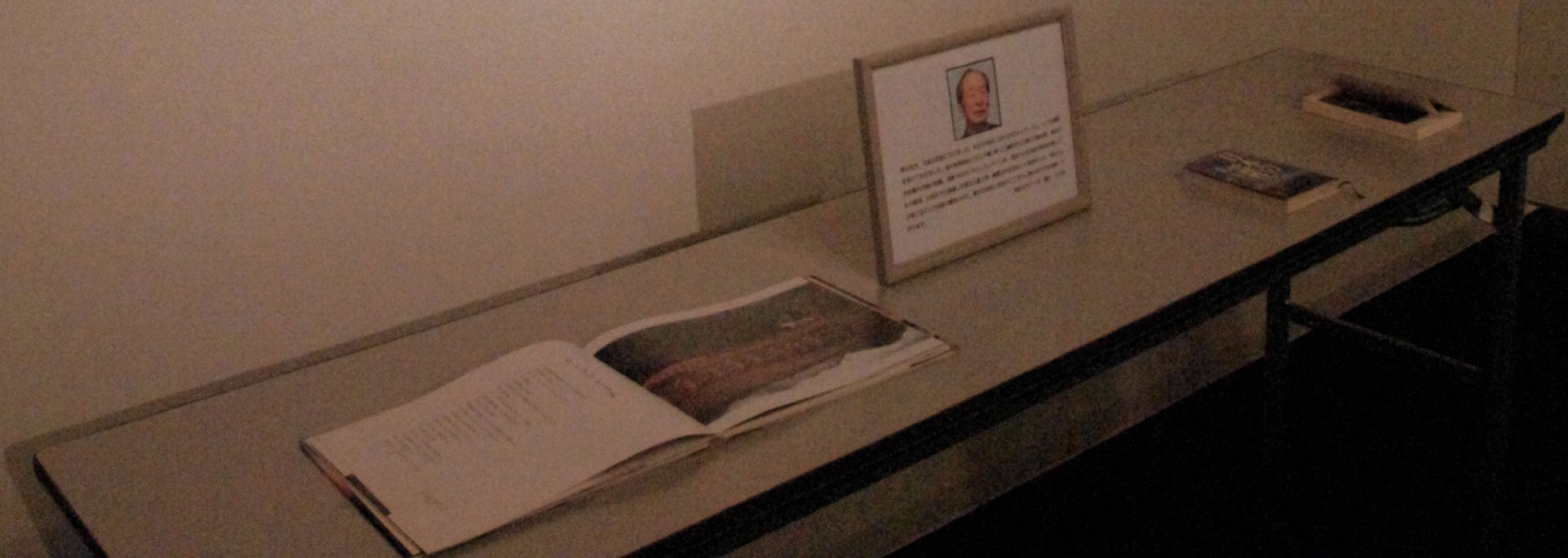
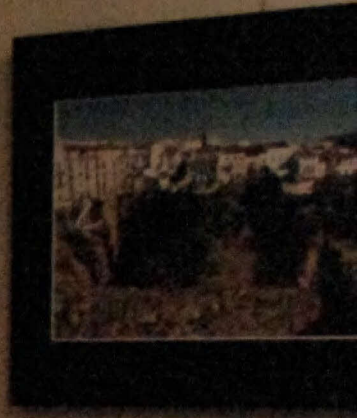


カルガモの親子  
野川




野川  
カルガモの親子

野川は、東京都武蔵野市にあり、多くのカルガモの親子が暮らしている。この写真は、野川で撮影されたカルガモの親子の様子を捉えている。親ガモは、子供ガモを育て、彼らに泳ぐ方法を教える。野川は、カルガモにとって重要な繁殖地であり、多くの観光客が毎年この風景を楽しむ。

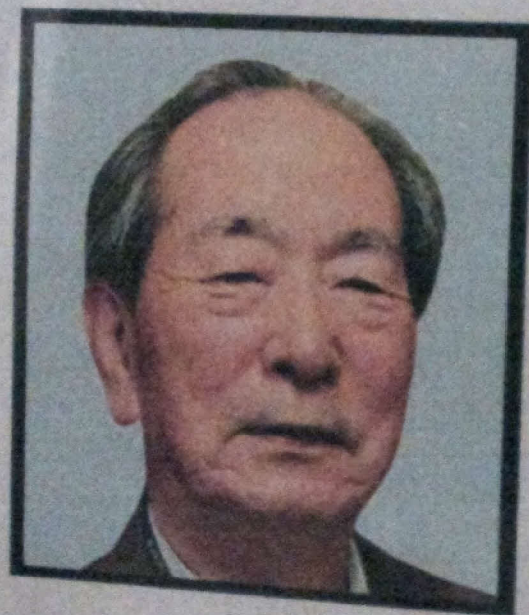


野川  
カルガモの親子



野川は、東京都武蔵野市にあり、多くのカルガモの親子が暮らしている。この写真は、野川で撮影されたカルガモの親子の様子を捉えている。親ガモは、子供ガモを育て、彼らに泳ぐ方法を教える。野川は、カルガモにとって重要な繁殖地であり、多くの観光客が毎年この風景を楽しむ。





鏑山先生、大変お世話になりました。先生の作品に込められたメッセージに、いつも感銘を受けておりました。現市長西岡氏とセスナ機に乗って撮影された野川の森の姿、朝まだき多摩川の鳥の楽園、樹齢 6500 年というレバノン杉、東経大にある新次郎池の美しい水の変容、小金井から眺望した燃える富士等、貴重な作品を出して頂きました。先生にしか写せなかった自然の景色の中に、豊かな自然に包まれてこそ人間の在り方を再考しております。

令和元年11月 國分 ひろみ



# 日本写真協会賞 功労賞

## 鏑山 英次

TSUBAYAMA Eiji



- 1931 7月21日生 福井県福井市出身
- 1955 早稲田大学政経学部経済学科卒業
- 1956 東京新聞社入社
- 1967 中日新聞社入社
- 1987 中日新聞東京本社・東京新聞編集局写真部長
- 1996 編集局フォト・アドバイザー
- 2001 退社、その後フリーランス

### ●主な著作

- 1963 「秘境の仏たち—インド紀行」(二見書房)
- 1986 「カルガモ一家の愛情日記」(PHP研究所)
- 1992 「渡良瀬有情」(東京新聞出版局)
- 1995 「琵琶湖発・1」(サンライズ印刷)
- 2001 「生きている野川—それから」(創林社)
- 2004 「津軽の音が聞こえる」(ウインズ出版)
- 2007 「日本の霊性」梅原猛著・写真担当(新潮社)

### ●主な個展

- 1993 「ハケの自然と暮らし」(都庁第一庁舎・府中郷土の森博物館)
- 1995 「スーパー歌舞伎展」三代目猿之助(松坂屋百貨店・銀座)
- 1997 「東京・蘇る水と緑」  
(東京国際フォーラム・調布市文化会館たづくり)
- 2000 「玉川上水」(新宿パークタワーホール・調布市文化会館たづくり)
- 2009 「暖流・異彩」(ポर्टレートギャラリー・朝日新聞ギャラリー)
- 2012 「多摩の鼓動」(ヒルトン東京ヒルトピアアートスクエア)

### ●主な受賞

- 1984 東京写真記者協会部門賞(代表受賞)
- 1992 日本新聞協会賞(代表受賞)
- 2013 小金井市環境賞

### 受賞理由

鏑山英次は早稲田大学在学中に写真に興味を持ち、渡辺義雄の写真倶楽部に入り指導を受ける。東京新聞に入社し写真部員として活躍。在籍中には皇居前のビルの谷間の池で雛をかえし、子育てをするカルガモ一家が広い道路を渡り濠に入って成長していく姿を紙面で紹介。都市の自然の変化に逸速く注目するなど目覚ましい活躍をした。定年後は、東京新聞のフォト・アドバイザーを務めながらフリーの写真家として、高度成長で汚れた野川を「生きている野川」に再生させるために、流域の人たちの先頭に立って写真力を使い、見事に野川に武蔵野の自然を取り戻した。そして多摩川や野川の自然のすばらしさを今も世に伝えている。水と川に関する研究にも積極的に取り組み、河川学者とともに海外まで遠征している。

また、津軽を長年にわたり撮影し、津軽出身のハンセン病患者で詩人の桜井哲夫さんと出会い、「津軽の音が聞こえる」の写真詩集を発表し、NHKのにんげんドキュメントにも取り上げられたことでも知られる。氏はいつも写真と社会の融合を考え行動してきた。

それらの業績は、派手な形で発表していないが、一写真家が社会に投じた功績は賞賛すべきものがあり、今年度の功労賞に決定した。(田沼武能)



1985年6月 内堀通りを渡るカルガモ一家 ©東京新聞





新次郎池

東経大構内





鳥の楽園

多摩川大橋上流付近